

調査研究テーマ:

# 経営系専門職大学院(MOT分野)における コア・カリキュラム策定に関する調査研究

---

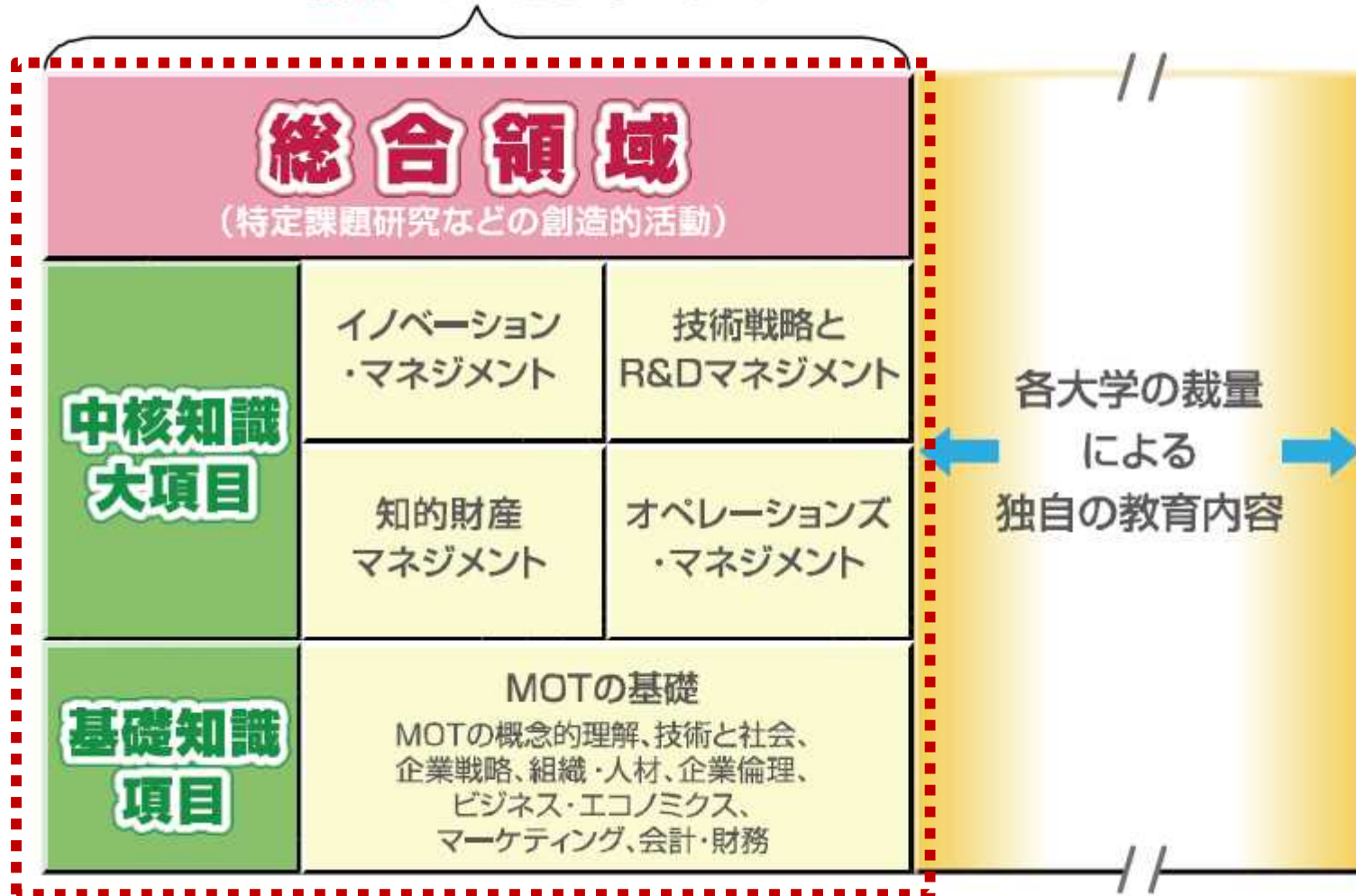


2016年12月19日  
於中央合同庁舎第4号館

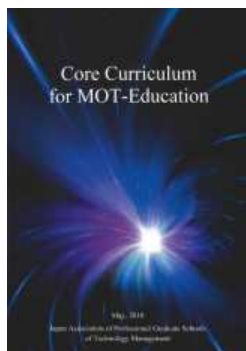
# MOT教育コア・カリキュラム(現カリキュラム)の全体像

MOT専門職大学院の修了生が最低限修得しておくべき教育内容と到達レベルとを体系化・明文化したもの(平成22年3月策定)

## MOT教育コア・カリキュラム



# 本調査研究活動の概略



2010年策定  
「MOT教育コアカリキュラム」  
(現カリキュラム)をベースに

総合領域 特定課題研究などの創造的活動		
中核知識 大項目	イノベーション マネジメント	技術戦略と R&D マネジメント
	知的財産 マネジメント	オペレーションズ マネジメント
基礎知識 項目	MOTの基礎 MOTの概念的理解, 技術と社会, 企業戦略, 組織・人材・企業倫理, ビジネス・エコノミクス, マーケティング, 会計・財務	

## ① 特定課題研究に留まらない多様な学修形態の検討

- 各専門職大学院による独自性を発揮したアクティブラーニングの多様な形態の例示
- モデル教育プログラムの提示
- 総合領域の学修全体に占める割合を検討

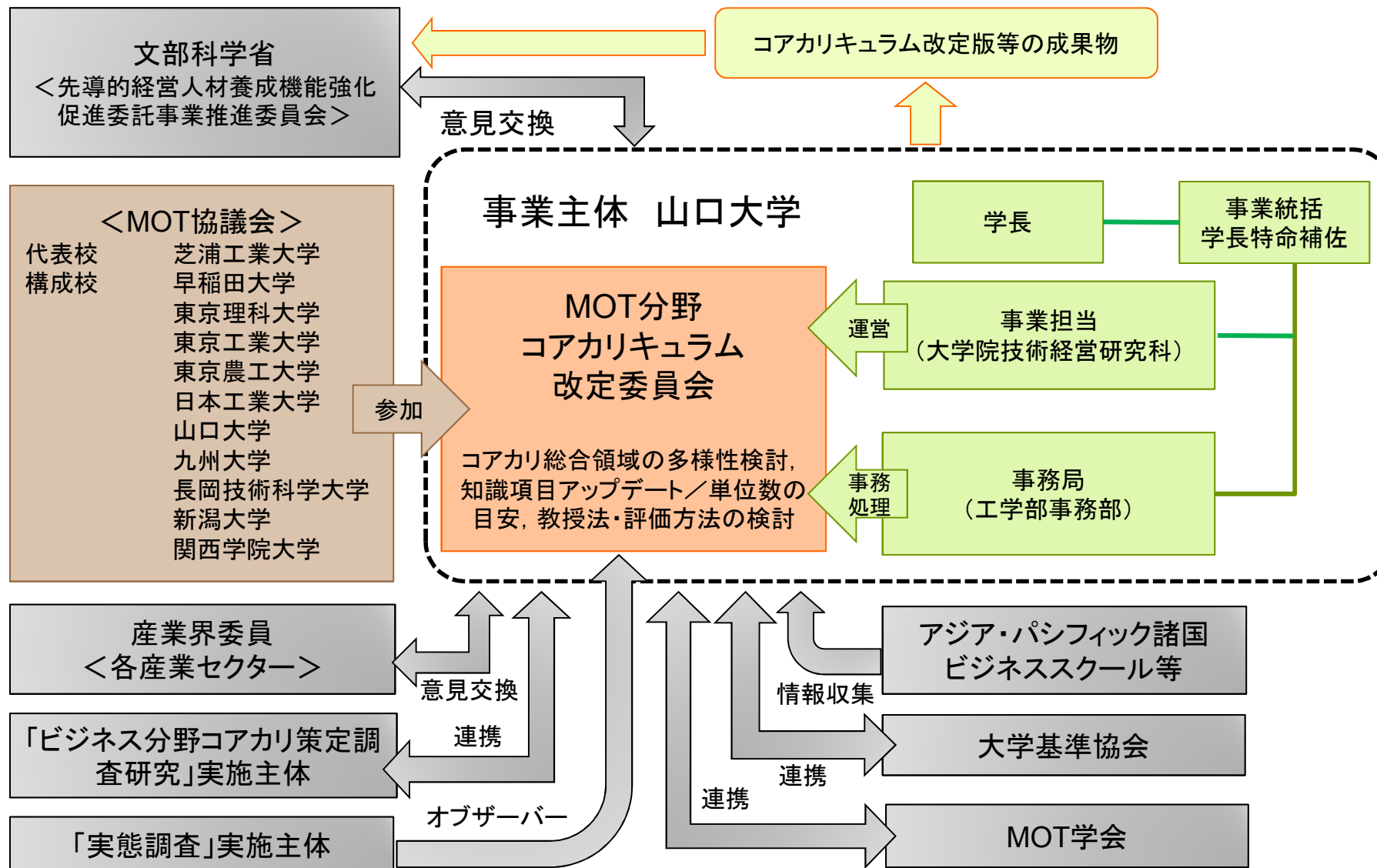
## ② 項目ごとのアップデート

- 国内産業界の動向・教育ニーズの潮流を把握
- 国外の動向, 特にアジア・パシフィック諸国などからの留学生の学修に配慮
- 中央教育審議会専門職大学院ワーキンググループの検討状況との整合性
- ビジネス分野コアカリキュラムとの連携

## ③ 全体ボリュームの検討

- カリキュラム全体を見据え, 単位の実質化と学修時間の確保の視点に立ち, 望ましい修了必要単位の目安を提案

# 本事業の実施体制



# 事業計画

キックオフミーティング後

日程	事業の内容
2016年7月	MOT分野コアカリキュラム改定委員会の設置, 作業分担決定
2016年8月～9月	文部科学省「先導的経営人材養成機能強化促進委託事業推進委員会」との意見交換 各産業セクターへの産業界委員就任依頼 「ビジネス分野コアカリキュラム策定調査研究」および「実態調査」実施主体との連携体制構築 認証評価機関, 関連学会との連携体制構築
2016年10月	第二回 MOT分野コアカリキュラム改定委員会, 経過報告
2016年11月	第三回 MOT分野コアカリキュラム改定委員会, 経過報告 中間報告会開催
2016年12月	第四回 MOT分野コアカリキュラム改定委員会, 報告書案検討, <b>合同中間報告会開催</b>
2017年 2月	第五回 MOT分野コアカリキュラム改定委員会(日本語版冊子完成)
2017年 3月	合同シンポジウム開催 英語版冊子, 広報用ホームページの完成

# カリキュラム改定委員会での議論の経過

- 第二回委員会(10月17日)
  - 総合領域に関する議論
    - 各校のディプロマポリシーとの整合性を再確認
  - 各校での総合領域に関する活動の報告
- 第三回委員会(11月21日)
  - 基礎知識項目・中核知識大項目のアップデート
    - AI, IoT, Big Dataといった情報技術の社会実装の潮流, 先端技術の社会受容性をとらえた内容に
    - 大項目の記述の拡充
  - 報告書の構成および総合領域に関する議論のとりまとめ案について
- 第四回委員会(12月12日)
  - 基礎知識項目・中核知識大項目のアップデート案(分担部分の確認)
  - 全体ボリュームの検討

# 各校における総合領域に係る教育科目事例

大学名	総合領域の教育科目名	大学名	総合領域の教育科目名
日本工業大学	技術経営プロジェクト研究I・II (特定課題研究)	東京工業大 <基礎科目群>	リサーチ・リテラシー演習 (1)
	ケーススタディ科目		Seminar of Advanced MOT Research I II(2)
	スキル関連科目		技術経営講究第一～四
山口大学	特定課題研究	<発展科目群>	戦略的ディベートの実践 /Strategic Debating Skills (1)
芝浦工業大学	特定課題研究		技術経営インターンシップIまたはII
	基礎課題研究		技術経営インターンシップIIIまたはIV
	プロジェクト演習	東京農工大	産業技術実践研究I・II
	新事業創出戦略+芝浦ビジネスモデルコン ペティション		プレゼンテーション演習I～IV
早稲田大学	専門職学位論文		インターンシップ
<演習科目群>	経営戦略演習, …, デザイン&ブランド・イノ ベーション演習, …		研究・開発プランニングI・II
東京理科大	テーマプロジェクトA・B		フィールドスタディ
	ゼミナール1, ゼミナール2		グラントプロポーザル実習
長岡技科大	システム安全実務演習A		ケーススタディ

## アップデートの例：「マーケティング」の項

現カリキュラム

改訂版カリキュラム

### 大項目に関する記述

なし

### 中項目

1. 市場機会の発見
2. セグメンテーションとターゲティング
3. ポジショニング
4. マーケティング・ミックス
5. ブランド
6. 顧客満足
7. 生産財マーケティング

### 大項目に関する記述

マーケティングとは、顧客や市場の創造である。生活水準や技術水準が向上した結果、潜在的な顧客の需要を開拓できるかどうかは、企業経営を左右する。マーケティングの基盤となる知識を修得し、戦略の立案と実践に必要な主要事項を身に付ける。

### 中項目

1. 市場機会の発見と分析
2. 市場への働き掛け
3. 顧客との対話

- 大項目に関する記述を拡充し、中項目の整理統合を行った。



# アップデートの例：「イノベーション・マネジメント」の項

## 現カリキュラム

1. イノベーションとは
  - ・ シュムペーターの「新結合」を含め「イノベーション」ということばが表す概念について説明ができる。
2. 企業経営とイノベーション
  - ・ 現在、日本企業になぜイノベーションによる発展が必要とされるのか、パラダイム・シフトの必要性(なぜ、改良、改善など従来の延長線上の予測が及ぶ範囲でのインクリメンタルな進化では不十分なのか)などについて議論することができる。
3. イノベーションの機会
  - ・ 上記1, 2の内容と関連の深いイノベーションの事例を示すことができる。
4. オープン・イノベーション
  - ・ ビジネス・モデルの意味、オープン・イノベーションの概念について説明できる。
5. アーキテクチャについて
  - ・ 製品、工程のアーキテクチャの概念、イノベーションにおけるアーキテクチャの意義について説明できる。

## 改訂版カリキュラム

1. イノベーションとは
  - ・ シュムペーターの「新結合」を含め「イノベーション」ということばが表す概念について説明ができる。
2. オープン・イノベーション
  - ・ ビジネス・モデルの意味、オープン・イノベーションの概念について説明できる。
3. 企業経営とイノベーション
  - ・ <同左、省略>
4. **社会的イノベーション**
  - ・ イノベーションによる経済発展を含めた社会とイノベーション関係について理解する。
5. アーキテクチャについて
  - ・ 製品、工程のアーキテクチャの概念、イノベーションにおけるアーキテクチャの意義について説明できる。

今世紀に入り、環境・エネルギー問題、サイバー・スペース、再生医療等、技術的には実現可能で市場も存在するが普及には社会受容性の検討を要する課題が顕著になってきている。これらの問題を考えるためにはイノベーションと社会の関係を理解することが必要

## コアカリキュラム改定作業における留意点とアクション①

### ステークホルダーの参画

MOT分野における教育研究の専門家としてはMOT協議会メンバー校から委員が本事業に参加する  
産業界からの意見聴取のため、「産業界委員」を招聘する



### 事前作業

「MOT分野コアカリキュラム改定委員会」設置後、文部科学省「先導的経営人材養成機能強化促進委託事業推進委員会」との意見交換を行い、実施体制、作業内容、日程等について確認する



### 関連実施主体との連携

「MOT分野コアカリキュラム改定委員会」設置後、「ビジネス分野コアカリキュラム策定調査研究」実施主体との連携体制を構築し、コアカリキュラムの独自部分、共通部分を明らかにし、共通部分については特に連携してカリキュラムを策定する

### 実態調査の結果活用

「実態調査」実施主体が提供する(1)国内外の経営系大学院の実態、(2)国内外の経営系大学院修了生の実態、(3)産業界からのニーズ等に関する情報を踏まえ、現コアカリキュラムで定めた総合領域のあり方、知識項目の内容の改定を行う



### 修了必要単位数

学生の背景の多様性(年齢、職業経験の有無、職種、職位、企業の支援の有無等)に配慮した単位数の目安(30~40単位の範囲)を提案する



### 実践的授業の割合

産業界からの意見および実態調査結果を踏まえ、実践的授業のあり方を確認した上で、上述の修了必要単位数に占める実践的授業の割合および必要時間数について目安を提案する



### 国内産業構造

現カリキュラム策定時(2010年)からの国内産業構造の変化および不変的な部分を明らかにし、これらに応じて現コアカリキュラムの知識項目の改定(アップデート)を行う。



## コアカリキュラム改定作業における留意点とアクション②

### 国外動向



現カリキュラムをベースとしつつ、社会経済のグローバル化に対応し、海外、特にアジア・パシフィック諸国でも通用するコアカリキュラムを提案する／アジア・パシフィック諸国のビジネススクール、例えばアジアMOTコンソーシアム会員校から各国の教育システムに関する情報を収集する／コアカリキュラムの中に日本ならではの知識項目を加えることにより、海外からの留学生の誘因を図る

### 学生の多様性

学生の背景の多様性(年齢, 使用言語, 職業経験の有無, 職種, 職位, 企業の支援の有無等)に応じ、改定されたコアカリキュラムを基盤としつつ、フルタイムやパートタイム, 日本語や英語等多様な受講方法で学ぶ仕組みを提案する。

### 各大学院の独自性

コアカリキュラムの総合領域の中で、アクティブラーニング等、各専門職大学院が独自性を発揮する多様な形態の教育を例示し、また多様な形態に対応したモデル教育プログラムおよび教授方法を提示する。



### 社会への浸透

現コアカリキュラム策定時の進め方を踏まえ、本事業でも図表・具体例などによって教育内容の可視化を図り、後述するように、冊子・ウェブページなどを通じて、MOT教育に対する社会の理解度向上を図る。

### 中央教育審議会の検討内容との整合性

中央教育審議会の検討内容、例えばMOTに関係する業界等の社会(「出口」)のニーズや社会(「出口」)との連携を念頭に置き、現カリキュラムをベースとして改訂されたコアカリキュラムを提案する。



### 関連機関からの意見聴取

MOT協議会メンバー校以外の経営系専門大学院に対しても中間報告会・シンポジウムの席、あるいはパブリックコメントの形で意見を聴取する機会を設ける

認証評価機関としては公益財団法人・大学基準協会、関連学会としてはMOT学会との連携体制を構築し、意見を聴取する。

## その他の作業項目と具体的アクション

### モデル教育プログラムの開発



改定されたコアカリキュラムを基盤としつつ、学生の背景の多様性(年齢, 使用言語, 職業経験の有無, 職種, 職位, 企業の支援の有無等)に応じて, フルタイムやパートタイム, 日本語や英語等多様な受講方法で学ぶ教育プログラムを提案する

この際, 日本ならではの教育内容を含めることにより, 海外からの留学生の誘因を図る。

### 関連実施主体との合同シンポジウム



本事業および隣接分野である「ビジネス分野コアカリキュラム策定調査研究」事業の進捗および成果を文部科学省「先導的経営人材養成機能強化促進委託事業推進委員会」ならびに社会に対して公表するための合同中間報告会・合同シンポジウムを開催する

### 広報活動

改定したカリキュラムに関する日本語版および英語版の冊子を作製し, 国内外の企業・機関・大学に配布するほか, 本活動の広報を目的としたウェブページを通じて広く情報発信し, MOT教育に対する社会の理解度向上, MOT教育の社会への浸透を図る。

なお, 広報活動においては事業全体の進捗状況を見ながら, 「ビジネス分野コアカリキュラム策定調査研究」実施主体と共同で冊子作成あるいはウェブページ設置をすることを検討する。